



自治研会報
ワトスン
地域のこれからを
考える

2026年(令和8年)
3月 第44号
発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
Eメール: yukie.onishi@nifty.com
編集者: 大西幸江
自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

◆目的◆
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。

◆活動◆
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探求し、安心して暮らせる町作りを寄与する町民の自主活動を応援する。

③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。

◆入会/退会◆
④入退会には、特に条件を定めない。



生名島から見た先田名後の処分場

本当にこれでいい?!

上島町行政の在り方は、問題ないのか

長期政権下で

見失われた責任感

新年間もなく岩城地区の一般廃棄物処理場のごみ処理量が基準の2倍以上不法投棄されていた事が発覚し、町長以下部長課長が記者会見で頭を下げていた報道は記憶に新しい。記者会見直前に議員協議会で、当該事件につき記者会見を行う旨の説明があった。町長による説明を要約すると「本件につき私は何も知らなかった。処理場が何処にあるかも知らず何年も前から処理容量をオーバーしていたのに私に何の報告も無かった。このような事態になった原因を究明し関係者を処分する。」と聞こえる内容だった。

普通なら組織に於ける部下の不祥事は、最終的にはトップの責任であり、役場組織の代表である町長の言葉とは到底思えないものだった。

現政権が5年前に選定したフェスパの指定管理者が昨年10月に経営困難に陥り、契約途中の11月より閉鎖、町民に大変な迷惑をかけている。この事でこの業者は町の施設運営を任せるには不適切だった事が明らかになった。そして次の指定管理者

に経験豊富な大手事業者任せにされた。つまり以前、前政権がこの地元事業者の経営能力に疑念を持ち、東京の大手事業者に任せようとした事は間違いではなく、その後、町が運営に関与できる第3セクター「いきなスプロク(株)」に運営変更した経緯も間違いではなかったことになる。運営継続力が危惧されていたにもかかわらず現政権がまたその業者を選定し、指定期間途中で運営放棄され契約不履行となった責任はどのようになるのだろうか。

又以前、入札情報を漏洩し町に大きな損害を及ぼしたとし町幹部が逮捕される事件が起きた時も本人には非常に重い処分がなされたが、その人物を入札情報を扱える地位に登用した任命責任者の責任の取り方はどうだったか。

今回のごみ処理問題にしても、今後発生するであろう町民への不利益を明らかにし、町民への丁寧な説明と謝罪、そのうえで責任者としての責任への向き合い方が問われているところだろう。

(生名 濱田和保)

町の未来像なき議論への危惧

教育のあり方と行政の戦略不在がもたらす地域分断への懸念

2025年(令和7)に入りわが町の学校統廃合問題につき「上島町学校あり方検討委員会」が結成され、都合6回の会合を経て同年12月22日、協議結果(II提言書)が教委と町長に提出された。このことは報道(愛媛新聞12月23日付)で知った町民も多いだろう。そして今年1月30日、岩城地区の住民団体がその提言内容の見直し要望を、教委および町長に提出した。(1月3日付・愛媛新聞)

併以来醸成されつつある町民の一体感に楔を打ち込む(II分断)ことになりかねない。

架橋事業はおよそ半世紀をかける進行してきた。ならば行政理事者は早くから長いスパンでの協議対象にしておくべきであり、それをなおざりにしてきたこの度の事態だと考える。

こどもは地域の宝だという。そうならば、子ども中心(その育成者も)に考えたとき、これからどういう類の教育の場を設け、その実現のためにどういう取り組みが必要なのかを、まずは行政が自らの頭で勘案し、それを「あり方検討委員会」で検討してもらうという手順が必要だった。筆者は会議を傍聴しつつ、いつもそう感じていた。

ひとつの政策が実行されるまでには紆余曲折があるのは常だが、学校存続問題は極めて繊細な性質をもっている。長い年月各町村(II島)単位で営まれてきた人的育成活動が、島々が橋で繋がったからといって短兵急に変化すれば、合

最終目的像)があり、戦術(II目的達成に向けてのステップバイステップ)があるのは常識だ。学校統廃合問題の戦略とは、わが町の永續に向けての取り組み(II人口減対策とか)にほかならず、それが町民に明示されていなければ、町民の素直な理解・了解を得るのは難しい。

この度の岩城地区住民の要望は、極めて人口減に関しての危機感がうかがえるが、では行政側はどうなのか?。経済問題は当然大事。だがそれが全てに優先し、口先で「検討する」と言っても当事者の心には響かないだろう。

(弓削 平山和昭)

議員必携を読む 4

序章を経て、いよいよ本編。第一編 議会と議員/第一章 議会の組織より、今回は「議員の権限」を学びます。

まずは議会組織の概要から。「議会は、住民から直接選ばれた一定数の議員で構成される合議体」です。合議体とは、数人の意思を総合して、意思決定を行う組織体のこと。

『その意思は、会議における議決の形で表される』ため、会議を主宰する議長と副議長が置かれ、補助機関として議事事務局が設置されています。また、「常任委員会」は議案等の調査・審査を詳細かつ専門に行い、「議会運営委員会」は議会を円滑・効率的に行うために設置され、「特別委員会」は特定の事件の調査等が必要があるときに設置されます。



- ① 議会招集請求権
- ② 会議請求権
- ③ 議案提出権
- ④ 動議提出権
- ⑤ 発言権
- ⑥ 表決権
- ⑦ 侮辱に対する処分要求権
- ⑧ 請願紹介権

議案とは、『議会の議決の対象となる案件』で、町長・議員・委員会から提出されます。動議とは、『議会の意思決定を求めて議員から提起される議案以外のもの』で、会議の議事進行の過程でなされ、案を備える必要はありません。

今話題の岩城の一般廃棄物最終処分場の法令違反は、その対応に少なくとも約5億を要するとも、将来にわたり住民が多大な不利益を被るこんな事案こそ、代表たる議員には、動議提出権なり特別委員会の設置なり、権限を活かして毅然と対峙されたい。私たちが選んだ議員がどう職責を遂行しているか、注視していく必要があります。

(ローカルデモクラシー研究所代表 壬生優子)

空は青く、向日葵が咲き誇るウクライナ

—あなたの心に残っているものは—

突如ロシアがウクライナに進攻して4年余りが過ぎ両国に多くの戦死者がでています。未だ和平には厳しい状況がテレビ等で報道されています。

立春の日にイタリア映画『ひまわり』を視ました。両国の戦死者や民



映画ポスターから

間人犠牲者の埋葬地の上に、見渡す限り向日葵の花が咲き誇る景色。生存兵士が国籍を偽っての離別生活の過酷さ、はかなさを描いた切ないドラマでした。

そのウクライナの若き青年が、徴兵前に大好きな日本の国技大相撲を目指し、角界入りを果たしました。話題の大関・安青錦(あおにしき)です。九州場所、初場所と2場所続けての賜杯は3月春場所後の横綱も夢ではなく、69連勝の昭和の大横綱双葉山、平成の大横綱白鵬の記録に比べられる関取となりました。優勝後のコメントで「記録

ウクライナ国旗の色。横綱昇進とウクライナに春の訪れるのを切望します。

昔々の昭和20年代、双葉山が引退後に時津風部屋を継承した巡業の一行が弓削島に来島し、商船学校に土俵をこしらえ、相撲部と稽古をしました。私は小学1年か2年でした。近くで見ると大相撲の大きさは今でも記憶にあります。時津風親方他、鏡里 大内山 若葉山 不動岩等の関取に、行司付き人の大所帯。関取は民泊で、狭いトイレや風呂場、戦後の食料事情の厳しい当時を思うと、企画には大変なご苦労があったと想像します。旧き1ページです。

(弓削 濱村 壽)

民主主義ってなあに？

少数意見をどう生かすか — 謙虚さと「聴く力」

語源は、ギリシャ語の「人民と人権が結合したデモクラシー」と言われている。古代ギリシャの都市国家で、市民が集まりいろいろな問題を話し合い、決定していたことが発展したもので、基本的な人権・自由権・平等権・多数決の原理・法治主義などが主たる属性である。

人の知恵のすばらしさを感じる。人は生まれながらにして人権があり生きる権利等を得る。古代ギリシャの都市国家人たちの文明に感謝する。

デモクラシーの根源は、みんなの幸せを求めること。そのためには相手を知ることであり、聴くことが大切でしょう。

地球上には、いろいろな国があるが、民主主義国家である日本は、市民の代表を選挙という多数決を用いて代表を決定するが、多数決の原理に矛盾点はないのか

と思うことがある。

最善の方法として実施しているが、選び方に人の理性の違いによって、「みんなで決める」を活かされるか、民主主義の源を考へる。代表に選ばれた人は信任を得たと思うのは、もちろんだが少数意見をどのように生かすかが問われる。選ばれなかった数があるからだ。数に惑わされ、聴く耳をなくし、独創することが強いリーダーだと勘違いしたら、トップダウンとなり、それは極論すれば独裁者となる。この点が多数決の弱点かなと思う。

謙虚さを失わず、多様な意見を聴き、生かす社会こそ、民主主義社会といえよう。

「初心忘るべからず」とはこんなことを言っているのかな？

〇〇ファーストなんて言わないでよ。平和のために。

(岩城 岡野英二)

この度の43号を拝読させて頂きまして、お手紙を差し上げたくりました。

岩城小中学校の弓削への統廃合につきましては、多くの方が懸念をもっていることを知って心強く思いました。目の前の小学校がなくなるなどあり得ないことと思います。ウォーキングから帰って、にぎやかな校庭を見回すと、50名以上の小学生と教員2、3人を数えると、これが統廃合してなくなる小学校の姿かと改めて驚きました。送迎バスも足りないだろう、学校は地域の宝です。これをなくすとは行政の責任放棄・墮落です。先日偶然見たCATVで、濱田氏の手続き上の齟齬を指摘された町長が、いきり立って恫喝するという、その場にそぐわない姿に驚くとともに悲しくなりました。

小生は、この地にお世話になってからずっと“子どもの健康な成長を願って”わずかながら寄付を続けてきました。今その願いが崩れ去ろうとしています。岩城の子どもたちの泣き声が聞こえます。

(岩城 夏坂周司)

学校は島の道しるべ

—70年前の祖母の記憶から—

ワトソンいつも読ませてもらっています。

私の話は行政の難しい話ではありませんが、学校問題が取りざたされていることを知りましたので、私も学校にまつわる忘れられない思い出を聞いてもらいたく書いてみました。

私が中学3年生の時、70年前の遠い昔話。母方の祖母が北海道から我が家に来ることになり、皆がとも心配していました。

祖母が家を出てから4、5日たった日、岩城中学校の運動場に立っていました。その姿は、着物の上からモンペ姿で、足にはハマのちよつと高い下駄ばきで、背中には大きな風呂敷包みを背負っていました。雨除けにかけたビニールの風呂敷がひらひら風に揺れていました。言葉はよくわからなかったのですが、私の名前を呼んでいたのです。祖母だとわかりました。祖母の言うには、学校を知らない島民はいないはず、学校に行け

ば子供が通っているはずだから、学校さえ尋ねれば娘の家にたどり着けると思い、出発したそうです。あつて当たり前の学校だと思いましたが、学校問題を賛成、不賛成で片づけるのはどうかと思います。

学校がなくなる島民の事もよく考えてもつとつと話し合いの場を持つてもらいたいと思います。せつかく立派な橋ができたのだから、何もかも一つの島にまとめないで、それぞれの島の良いところを活かして分散することも、皆のつながりあえる上島町になるのではないかと思いました。

岩城はとても良いところです。弓削ではなく岩城に学校とはならないのですかね。行政のことはあまりわかりませんが、思ったことを書いてしまいました。

インフルエンザにかかり畑仕事ができなく家にもついていたのでワトソンを読みながら、ちよつと仲間入りさせてもらいました。

(岩城 砂川 美砂子)

投稿記事募集

上島町自治研究会では、皆さんの投稿記事を募集しています。次号テーマ：「議会に思うこと」文字数：800字程度 締め切り：毎月の第2日曜日 記名原稿をお願いします。原稿は世話人に手渡し、もしくはメール(yukie.onishi@nifty.com)でお願いします。分量に関しては、趣旨の変わらない範囲で手を入れさせていただくことがあります。

カンパ募集

ワトソン発行費用捻出のため、皆さんのカンパを募集しています。活動に賛同いただける方、応援したいと思っただけの方、いくらからでも結構です。世話人までご連絡ください。世話人：濱村寿・平山和昭 大西幸江他 カンパいただいた方、ありがとうございました。大切にさせていただきます。